

事例 高等学校英語科

1 単元について

対象学年	高等学校 第2学年
学習指導要領	物語文などを読んで、その感想を話したり、書いたりする（ウ）
単元名	English Reading Lesson 3 A Deaf Child Listened
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語文を読んで、英語で感想を話し合ったり書いたりする言語活動に積極的に取り組み、コミュニケーションを続けようとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度） ・ 自分が感じたことについて適切な表現を用いて十分に伝えることができる。（表現の能力） ・ 文章の概要を把握するだけでなく、じっくり味わって読むことができる。（理解の能力） ・ 使われている語彙に習熟するとともに、障害者の問題の背景を理解している。（言語や文化に対する知識・理解）
配慮事項	<p>物語文の構成、内容に習熟させるために、以下の事項に配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スキミング、スキニングを活用して大まかに意味をとらせ、Q&Aで確認する。 ・ 一文一文の意味の確認は行うものの、細かい文法事項にはこだわらない。 ・ 音読を重視してさまざまな形で行わせ、フレーズごとに意味内容と連携させていく。 ・ 人物の内面にも注意させて、最後の感動的な場面の意味を考えさせる。 ・ 感想を英語で書かせて発表させる。
参考資料	障害者についての英文資料（インターネットを利用）

2 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
読むこと の 評価 規準	言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを主体的に続けようとしている。		英語を読んで、情報や考えなど書き手の伝えようとすることを正確に理解することができる。 英語を、場面や目的に応じて適切に読みとることができる。	言語やその運用についての基本的な知識を身に付けている。 英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
話すこと の 評価 規準		英語を読んで得た情報や自分の考えを英語で正しく話すことができる。 英語を読んで場面や目的に応じて、英語で適切に話すことができる。		
単元 にお ける 評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> 既習の表現を使って自分の考えを伝えようとしている。 相手に質問したり反復を促したりして積極的に相手の話を聞こうとしている。 必要なところは強調して印象的に話を進めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容をしっかり把握してあらすじを話したり書いたりできる。 あらすじを基にして感想を話したり書いたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> スキミングなどの読み取りの技術を活用して概要を読み取ることができる。 精読して物語を味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文中で使われている語句がわかる。 物語の時代背景についての知識がある。

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
学習活動における具体的な評価規準	<p>(言語活動への取組) 類推するなどして読み続け、概要をつかもうとしている。</p> <p>(コミュニケーションの継続) 知っている語句や表現を用いて話し続けている。</p>	<p>(正確な発話) 物語のあらすじを正確な英語表現を用いて相手に伝えることができる。</p> <p>(適切な発話) 物語の感想を適切な英語表現を用いて相手に伝えることができる。</p>	<p>(正確な読み取り) 物語を読んでその内容について正確に概要をつかむことができる。</p> <p>(適切な読み取り) 物語を読んでその内容を全体の話との関連において適切につかむことができる。</p>	<p>(言語についての知識) 新出の基本的な表現についての知識がある。 (clergyman, stare, for a while など)</p> <p>(文化についての理解) 物語の背景的な知識を把握している。(Hartford の位置や州、tag「鬼ごっこ」など)</p>

3 指導と評価の計画 (全8時間)

時	学習目標	学 習 活 動	評価規準				評価方法	指導・援助
			ア	イ	ウ	エ		
1	本文の概要を聞くとともに作者や背景の知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容のオーラルイントロダクションを聞き質問に答える。 教科書のサインランゲージの背景的な説明を読み質問に答える。 Gallaudet University の HP を見て興味関心を高める。 教科書の Before You Read の問題を解く。 					活動の観察	<ul style="list-style-type: none"> 教師からの一方的な説明ではなく対話形式で行う。 インターネット用いて学習への動機付けを行う。

2 ~ 6	教科書を読み進め内容を理解する。パラグラフごとに内容を正確に把握できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をプリントやワークブックのチェックで行う。 ・音読を重視して様々な形態で繰り返して読む。 ・本文の意味の確認をする。 ・本文の内容を数文でまとめる。 ・ディクテーションを行う。 				<p>提出してチェック</p> <p>活動の観察</p> <p>活動の観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未提出者や不十分なものには助言をする。 ・フレーズごとに読み、音声と意味を一致させる。 ・和訳にこだわりすぎないで英語のままで理解できるように努める。
7	教科書をまとめて内容をもう一度味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の After You Read を用いて教科書をまとめる。 ・内容に対する Q&A に答える。 ・口頭で教科書の表現を使った簡単な作文を行う。 				<p>提出してチェック</p> <p>活動の観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで口頭で練習し、正解は全員で確認する。 ・前時までに蓄積されてきた表現の復習を行う。
8	感想を英語でまとめて発表できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の記憶に残った場面をペアで言い合う。 ・その場面での感想をペアで言い合う。 ・クラスの前で発表する。 ・発表した内容を書いて提出する。 				<p>活動の観察</p> <p>提出物チェック ワークブックの記入状況のチェック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容の定着と発展を目指す。

4 単位時間の授業例

(1) 本時の目標

- ・主人公のトマスと障害者のアリスの出会いとかかわりを理解する。
- ・物語のあらすじを正確な英語表現を用いて相手に伝えることができる。

(2) 本時の位置

2 / 8時 (p.p.24 - 27 2行目まで)

(3) 展開例

	学 習 活 動	評価について	指導・援助
前時の復習	○ワークブックの答えを確認させる(指名)。全体でレポートさせる。	○机間指導を行ない、ワークブックの記入状況を確認する。ワークブックは、授業後に提出させる。	・記入状況に応じて、学習の意欲が高まるよう励ましの言葉を与える。
導入	○本時の教材をオーラルイントロダクションで紹介する。 例 There were a lot of handicapped children in USA in the 19th century. Do you think they could go to school? Takashi, what do you think? No. OK. Today you will meet a small girl, Alice,		・できるだけ生徒と対話しながら導入を進める。黒板に絵を描くなどして生徒の注意を喚起する。
展開	1. CDで本文を聞かせる。 2. 教師の後について単語の読みの練習をさせる。 3. 教師が読んだ部分について日本語で意味を確認させる。 4. フレーズごとの読み、CDを利用した読み、ペアによる読みなどの音読練習をさせる。		・全訳を行うが、詳しい文法説明は最小限にとどめて、内容を味わうことを優先する。 ・様々な形態で音読を繰り返すことによって音声と意味内容の一致を図る。
まとめ	5. 教科書を閉じてペアであらすじを言い合う。いくつかのペアに発表させる。 6. まとめのQAを行い、本時のねらいが達成されているか確認する。	一時間に数人ずつ評価する。 ペアの音読練習や、あらすじを言う練習で「関心・態度」を評価し、発表によって「表現の能力」を評価する。	

授業例（２）

（１）本時の目標

物語の感想を適切な英語表現を用いて相手に伝えることができる。

（２）本時の位置

８ / ８時

（３）展開例

	学 習 活 動	評価について	指導・援助
導入	○指導者が単元のあらすじを英語で述べる。		・単にあらすじを述べるだけでなく、生徒に質問をして内容を思い出させる。
展開	ペアで自分の記憶に残ったキーワードをお互いに言わせる。（日本語で） 例 「HATが心に残っています。トマスがことばを教えようとしてもうまくいかないところ。」 その場面での感想をペアで言い合う。（英語で）	活動の観察を行い、話を続けようとしている態度を評価する。	・例を出して、生徒に考えやすくさせる。
まとめ	例 I think Thomas was sad when he drew HAT in the earth because she laughed and didn't understand the meaning of the word. クラスの前でいくつかのペアに発表させて講評する。 宿題として書かせて提出させる	内容を聞いて表現の能力を評価する 宿題を提出させて内容を評価する。	・ペアでやらせることによって自信を持って発表できるようにする。 ・書いてあるものを読むのではなく、できるだけ語りかけるように発表させる。発表後、簡単な質問に答えさせる。 ・発表内容を通して本時の目標が達成されたかを検証する。

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

イー 物語のあらすじを適切な英語表現を用いて相手に伝えることができる。

(2) 評価の実際

評価の方法

・ペアで本時のあらすじをお互いに相手に伝える練習をして、クラスの前で発表させ、それを観察して評価する。

評価の決定

・文中の単語や文を使って5、6文でまとめることができたなら (B以上)と判断する。教科書以外に自分でいろいろな表現をつけくわえている場合はAの評価を与える。

(例1) It was a warm day in the early summer of 1884. A young clergyman, whose name was Thomas, sat down on the steps in front of his house. He noticed a little girl who was not taking part in the game. Why didn't she play with the other children? Teddy said, "She's deaf. She can't hear or speak." Thomas walked across the lawn toward Alice.

教科書の文を使いながらまとめているのでBとする。

(例2) It was a warm day in summer. Thomas was watching boys and girls. He noticed a little girl who was not taking part in the game. Her name was Alice. She was deaf. He bent down to pick a violet in the grass and gave it to her. She rubbed it over her eyelids and held it under her nose.

教科書の内容を自分なりにまとめているのでAとする。

(3) 個に応じた指導の実際

個の学習状況に応じた手立て

・教科書の本文をそのまま使ってまとめている生徒に対して

ペアの相手の生徒のまとめを参考に、自分で重要だと思う文を数文まず抽出させ、それを読んで暗記させる。その後不要だと思う語句を省いたり、難しい単語をよく習熟している単語に置き換えさせたりして練習させた。

完全な文でなくても概要が伝わるような表現を使えばよいと指導した。(時制などが適切でなくても構わない。)内容を把握し、自分のことばで述べることを重視した。

・何もいえない生徒に対して

教科書の内容を把握していないことが考えられるので、まず日本語で内容を述べさせた。ペアの相手のまとめや指導者のまとめを暗記させ、上記の生徒と同様に指導した。

単元を通じた継続的な手立て

あらすじを英語で伝えることができるということは、本単元の英文を理解し、かつ重要なところを把握して自分の知っている表現をできるだけ使わなければいけない、という高度な作業である。単元の最初のうちはほとんど本文をそのまま使ってしまうが、指導者が模範を示したり繰り返しやらせたりしているうちにうまくってきた。うまくできた生徒に対してはクラス全体に紹介して見本とさせた。また前時の復習としてこの活動を行うと定着率も良い。口頭でいわせるのと同時に必ずノートにも書かせて単元を通して再度見させれば、全体のあらすじの把握となり、自由英作文へと発展させていくことも可能となる。学習した内容を自分のことばでまとめさせたい。

6 評価から評定への総括

(1) 評価

リーディングにおいては「概要をまとめる」「自分の考えを伝える」「物語を読む」「音読」の4項目についてそれぞれ各単元において1項目ずつ評価するように年間計画を立てた。それに基づき、次のような補助簿を作成した。(授業における評価)

(例) LESSON 3 A DEAF CHILD LISTENED

評価項目「物語を読み、感想を述べる」

学習活動における具体の評価規準		評価方法	1	2	3	...
関心・意欲・態度	類推するなどして読み続けているか。	活動の観察	B	A	B	...
	知っている表現を用いて話し続けているか。	活動の観察	A	A	B	...
表現の能力	あらすじを適切に相手に伝えているか。	活動の観察	A	B	B	...
	内容をとらえて感想を話したり書いたりしたか。	活動の観察 プリント	B	B	C	...
理解の能力	物語の概要を把握できたか。	活動の観察 ワークブック・プリント	A	A	B	...
	物語を正確に把握できたか。	活動の観察 ワークブック・プリント	B	B	B	...
知識・理解	基本的な表現についての知識があるか。	ワークブック・プリント	A	A	B	...
	背景的な知識を把握しているか。	ワークブック・プリント	B	B	C	...

上記のように補助簿を一覧表にまとめると、生徒の活動の様子が把握でき、指導の参考となる。

(定期テストにおける評価)

前期中間考査(情報把握、要点のまとめ、自分の考えを書く)

前期期末考査(精読、自分の考えを書く、音読のテスト)

後期中間考査(速読、まとめ、自分の考えを書く)

後期期末考査(内容把握、精読、音読のテスト)

各テストにおいては「表現」「理解」「知識」をバランスよく試すテストとする。

(2) 評定

ウエイトバランス表を以下のように作成した。

(授業における評価と定期テストを同一の重みとした。)

観 点	評 価 方 法	配 分
関心・意欲・態度	授業における評価	10%
表現の能力	授業における評価	15%
	定期テスト	15%
理解の能力	授業における評価	15%
	定期テスト	15%
知識・理解	授業における評価	15%
	定期テスト	15%

